



— 展示解説員が博物館の見どころを紹介します —

アンモナイト

1階自然史展示室の奥にある「宮崎の大地」のコーナーには、恐竜やナウマンゾウ、数多くの化石などを展示しています。

今回はその中の「アンモナイト」について紹介します。

形がエジプトの太陽神「アモン」の角^{ツノ}に似ていることから、アモンの石「アンモナイト」と呼ばれるようになりました。見た目は巻き貝にそっくりですが、貝類ではありません。イカやタコに近い仲間です。大きさには、直径1mm前後の非常に小さいものから2mを超える大きなものまであり、巻き方も様々あります。

当館では「大地のシアター」入口にドイツ産のアンモナイトを展示しています。こちらは触ることができますので、ぜひ触ってみてください。

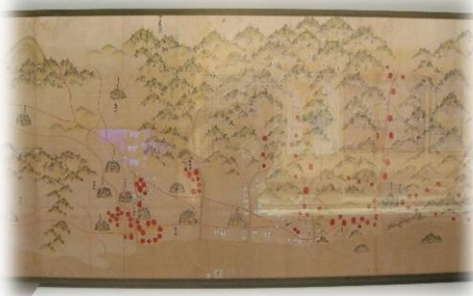


国絵図

2階の歴史展示室に、江戸時代に作られた地図「国絵図^{くにえず}」の下絵が展示されています。「国絵図」は江戸幕府の命令で作られた国ごとの地図です。

江戸時代の慶長^{けいちょう}、正保^{しょうほう}、元禄^{げんろく}、天保^{てんぽう}と4度作られました。展示室の下絵図は慶長の国絵図の下絵といわれています。「国絵図」は国の境界や道路、山や川を調べて、年貢（今の税金）などの額を正確に知ることを主な目的として作られました。大きさは国によって様々です。また、資料をもとに絵師（画家）が質の良い紙を使い、きれいに色を付け、丁寧に描いています。幕府の権威と象徴でもありました。現代の地図とはずいぶん違ってきます。

本館の下絵図（レプリカ）は、現在の延岡市から日南市（飫肥）あたりまでの絵図です。



博物館クイズ

宮崎県総合博物館は、2021（令和3）年3月7日に「総合博物館」になって節目の年を迎えます。さて何年になるでしょう。

- ① 30周年
- ② 40周年
- ③ 50周年



左図09 ©：榎田

